

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education  
発行：中山 迅  
事務局：中西印刷株式会社 学会部内  
URL：<http://www.jsse.jp>

2016.2.15

NO.226

# 科学教育研究レター



## 目 次

■ 選挙管理委員会だより ..... 2	■ 国際交流委員会だより ..... 11
役員選挙・代議員選挙のお知らせ	EASE2016 国際学会見学ツアーのご案内
■ 学会賞 ..... 3	国際学会開催情報
2016 年度学会賞候補者の募集	国際学会参加報告 (31)
■ 年会 ..... 5	■ 若手活性化委員会だより ..... 15
第 40 回年会開催案内 (第 3 次)	第 3 回研究会報告
■ 研究会・支部だより ..... 9	第 40 回年会若手ワークショップ&懇親会予告
2015 年度研究会開催のお知らせ	■ 編集委員会だより ..... 16
	「科学教育研究」編集状況報告
	■ 広報委員会からのお知らせ ..... 17

一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

役員選挙管理委員会  
代議員選挙管理委員会

一般社団法人日本科学教育学会では、次年度（2016年7月1日～）以降の新役員候補および第二期代議員の選挙を実施します。

新役員選挙では、会長候補の理事1名を含む理事11名および監事1名を選出します。2018年まで任期のある役員はそのまま役員候補となり、今期で任期満了となる役員が改選となります。代議員選挙では第二期代議員20名を選出します。代議員は会員の代表として総会で議決権を行使します。そのため、年齢、性別、専門、地域などで偏りのない幅広い層から選ばれることが重要です。女性や学生・若手からの立候補・推薦も大いに歓迎します。

皆様のお手元に2つの選挙の候補者推薦に関する会告を発送いたしました。ご一読いただき、相応しい候補を推薦（代議員については立候補も可）いただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 2016 年度学会賞候補者の募集

一般社団法人日本科学教育学会 大塚賞、同学術賞、同国際貢献賞、同論文賞、同科学教育実践賞、同功労賞、及び同奨励賞の候補者を下記により募集します。会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます。

### 1. 推薦期限

2016 年 5 月 16 日（月）（必着）

### 2. 推薦資格

- (1) 推薦者は会員とする。
- (2) 会員は、各賞について、それぞれ 1 件のみ推薦できる。
- (3) 各賞の候補者の推薦は他薦のみとする。
- (4) 推薦者は、推薦書の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロードできます）で、入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する。

### 3. 受賞資格

- (1) 大塚賞：科学教育に関する著しい業績や貢献によって本法人の発展に寄与した会員とする。なお、本賞の受賞は 1 度限りとする。
- (2) 学術賞：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ、科学教育の発展に寄与した会員とする。対象となる業績や功績は、原則として、推薦期限の日から過去 10 年以内のものとする。なお、本賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。
- (3) 国際貢献賞：科学教育の国際貢献・国際協力研究に関して顕著な業績や功績のあった会員とする。対象となる業績や功績は、原則として、推薦期限の日から過去 5 年以内のものとする。なお、本賞受賞後、さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。
- (4) 論文賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を「科学教育研究」に論文として発表した会員とする。対象となる論文は、原則として、推薦期限の日から過去 3 年以内に発表されたものとする。なお、本賞受賞後さらに優れた論文を発表した場合には、その論文について受賞対象とする。
- (5) 科学教育実践賞：科学教育の実践研究に関して顕著な業績や功績のあった会員、または、会員との連携により、科学教育に従事し、顕著な業績や功績のあったグループとする。対象となる業績や功績は、原則として、推薦期限の日から過去 3 年以内のものとする。なお、本賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。
- (6) 功労賞：学会の管理・運営を通じて学会活動の充実・発展に寄与した会員とする。なお、本賞の受賞は 1 度限りとする。
- (7) 奨励賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を「科学教育研究」、「年会論文集」、「研究会研究報告」に発表した若手の会員とする。対象となる論文等は、原則として、推薦

期限の日から過去2年以内に発表され、受理の時点で39歳以下のものとする。なお、本賞の受賞は1度限りとする。

#### 4. 受賞件数

各賞の受賞件数は特に定めない。

#### 5. 選考

会員からの推薦に基づいて、学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

#### 6. 賞

(1) 本賞は賞状とする。

(2) 賞の贈呈は、2016年度代議員総会において行う。

#### 7. 備考

論文賞の対象は、「科学教育研究」Vol.37、No.2以降に掲載の論文とする。また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol.38、No.2以降、「研究会研究報告」Vol.28、No.4以降及び第38回・第39回年会論文集に掲載の論文等とする。

## 第 40 回年会 開催案内（第 3 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 年会テーマ：科学教育における対話から学びの本質にせまる

2. 日程：2016 年 8 月 19 日（金）～21 日（日）（3 日間）

3. 会場：ホルトホール大分（<http://www.horutohall-oita.jp/>）

〒870-0839 大分県大分市金池南一丁目 5 番 1 号

### 4. スケジュール概要（予定）

- 19 日（金） 午前：課題研究発表・一般研究発表  
午後：課題研究発表・一般研究発表／インタラクティブセッション  
ジュニア・サイエンス・リサーチ・ミーティング（JrSRM）
- 20 日（土） 午前：課題研究発表・一般研究発表  
午後：（代議員総会）／科学教育研究セミナー（招待講演）／  
シンポジウム／懇親会
- 21 日（日） 午前：課題研究発表・一般研究発表  
午後：課題研究発表・一般研究発表

### 5. 内容：次の内容を予定しています

- (1) シンポジウム
- (2) 科学教育研究セミナー（招待講演）
- (3) 課題研究発表
- (4) 一般研究発表
- (5) インタラクティブセッション
- (6) ジュニア・サイエンス・リサーチ・ミーティング（JrSRM）
- (7) その他の企画：代議員総会、懇親会、若手ワークショップと懇親会、国際交流委員会企画（ラン  
チョンミーティング）、各種会合など

※年会のタイムテーブルは、2016 年 3 月 19 日（土）の理事会以降に年会 Web サイトにて公開予定。

### 6. 発表申込等について

- (1) 課題研究発表の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とする。企画をお持ちの方は応募願いたい。

<スケジュール>

(例年よりスケジュールが早まっておりますのでご注意ください。)

- ・企画受付締切：2016年4月24日(日)【オーガナイザー→年会企画委員会】
- ・受理審議：2016年4月25日(月)～4月28日(木)【年会企画委員会】
- ・審議結果報告：2016年4月29日(金)【年会企画委員会→オーガナイザー】
- ・原稿提出期間：2016年5月16日(月)～6月13日(月)【オーガナイザー→アップロード】

※6月13日は、登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく、オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出(Web ページからアップロード)する期限であるため、注意してください。

#### <企画応募方法>

応募に当たっては課題研究申請用紙及び理由書を課題研究の Web ページからダウンロードして、必要事項を記入の上、電子メールにて送信してください。

#### <企画応募先>

*jsse-kadai [at mark] freeml.com*

#### <応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。
- ・登壇者：登壇者を企画受付締切までに確定してください。課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできません。登壇を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください。なお、登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には、申請用紙に記入してください。指定討論者については、重複を認めます。
- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問いません。ただし、非会員による発表件数は、原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません。非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議します。なお、受理された企画であっても、受理後に登壇者の変更がなされ、非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合、受理が取り消される場合もありますので、ご留意願います。

#### (2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

##### <申込及び原稿提出の期間>

2016年5月16日(月)～6月13日(月)

※申込と原稿提出を同時に行ってください。

※期日等に変更が生じた場合は、学会 Web や科学教育研究レターなどで通知します。

##### <申込及び原稿提出方法>

申込者が直接、申込用の Web ページからアップロードしてください。

詳細は、「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」をご覧ください。

##### <資格・登壇可能件数>

登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は、各1件です。なお、一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は、課題研究、その他の企画にも登壇すること

ができます。

#### <発表時間>

一般研究発表の持ち時間は20分（発表15分、質疑・討論5分）です。インタラクティブセッションは2時間の発表時間を設定する予定です。

※本欄における「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します。ただし、各種発表の申込締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、各種発表の申込締切日の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とします。

### 7. 未就学児の託児所の利用について【事前調査期間延長】

第40回年会では、ホルトホール大分に併設する託児所をご利用いただけます。本件に関しまして、学会による費用支援のあり方について検討をしたいと思っておりますので、利用を検討されておられる方におかれましては、是非、ご希望をお聞かせください。ご利用申し込みなどの手続きは、実行委員会がとりまとめて行う予定で、募集時期などは改めて告知いたしますが、どれくらいの利用がありそうかを把握し、費用支援の具体的検討を実施したいと存じます。

ご希望をメールにてお知らせください。件名を「第40回年会 託児所利用希望」としていただき、本文に「お名前・ご所属」ご記入の上、2016年3月31日までに、実行委員会事務局の竹中宛 ([tmakiko@mark/oita-u.ac.jp](mailto:tmakiko@mark/oita-u.ac.jp)) にご送付ください。改めてアンケートフォームを送付します。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

施設名： 駅南キッズステーションにゃ〜ご

対象年齢： 3ヶ月以上～未就学児

参考 URL： <http://www.horutohall-oita.jp/facility/interaction/kidsstation.php>

### 8. 就学児の一時預かりについて【事前調査期間延長】

ホルトホール併設施設を利用した就学児の一時預かりは無料ですが、利用人数により実行委員会の支援体制の検討が必要ですので、ご希望がどれくらいあるか事前調査を実施したいと思います。施設利用は低学年程度までですが、中学年以上のお子様の実行委員会本部等での一時預かりも含め、利用を検討してみたいとお考えの方は、メールの件名を「第40回年会 就学児一時預かり利用予定」としていただき、本文に「お名前・ご所属」をご記入の上、2016年3月31日までに実行委員会事務局の竹中宛 ([tmakiko@mark/oita-u.ac.jp](mailto:tmakiko@mark/oita-u.ac.jp)) にご送付ください。改めてアンケートフォームを送付します。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（尚、実現可能かどうかを検討するための事前調査ですので、就学児の一時預かりが確定しているわけではありません。何とぞご了承ください。）

### 9. 若手ワークショップと懇親会

若手活性化委員会主催にて、年会企画委員会とタイアップして、年会初日の午後から夜にかけて若手ワークショップと懇親会（旧若手の会）を計画中です。詳細は、後日案内予定です。

## 10. 国際ランチョン・ミーティング

昨年に引き続き、国際交流委員会主催の国際ランチョン・ミーティングを開催します。国際学会・イベントに興味のある方の情報交換・交流の場となるようプログラムを準備中です。

## 11. 連絡先

〒870-1192 大分県大分市旦野原 700

大分大学教育福祉科学部 竹中真希子

E-mail : [tmakiko\[at mark\]oita-u.ac.jp](mailto:tmakiko[at mark]oita-u.ac.jp)

## 12. 年会実行委員会

【委員長】山下 茂 (大分大学)、【副委員長】牧野治敏 (大分大学)、【実行委員】三次徳二 (大分大学)、市原靖士 (大分大学)、島田和典 (大分大学)、中原久志 (大分大学)、【事務局】竹中真希子 (大分大学)

## 13. 年会企画委員会

【委員長】松浦拓也 (広島大学)、【副委員長】高藤清美 (筑波学院大学)、松寄昭雄 (埼玉大学)、【担当理事】日野圭子 (宇都宮大学)、加藤久恵 (兵庫教育大学)、【幹事】瀬戸崎典夫 (長崎大学)、【企画委員】泉 直志 (筑波大学)、大谷 忠 (東京学芸大学)、川上 貴 (西九州大学)、小泉健輔 (高崎健康福祉大学)、鈴木哲也 (東京未来大学)、野添 生 (宮崎大学)、増田有紀 (東京成徳大学)、松元新一郎 (静岡大学)、御園真史 (島根大学)、三好美織 (広島大学)、向 平和 (愛媛大学)、谷田親彦 (広島大学)、山本智一 (兵庫教育大学)

実行委員会の総力を挙げて第 40 回年会を盛り立てていく所存です。多数の皆様のご参加、ご来県を心よりお待ちしております。

第 40 回年会 実行委員長 山下 茂 (大分大学)



2015年度研究会開催のお知らせ

2015年度研究会の開催に関しては、下記の通りです。なお、案内及びプログラムなどの詳細については、学会ホームページに順次掲載するので、ご覧ください。

(1) 2015年度第7回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）

[テーマ] 自立的な学びを支える科学教育

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日時] 2016年5月28日（土） 10:00~16:30

[会場] 香川大学幸町北キャンパス

研究交流棟6階生涯学習教育研究センター第1講義室

〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 参加費は無料です。

会員、非会員にかかわらず、どなたでも参加できます。

[申込み先] 2015年度第8回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：林 敏浩

〒761-0396 香川県高松市林町 2217-20 香川大学総合情報センター

Tel/Fax (087-864-2227)

E-mail : [hayashi\[at\]eng.kagawa-u.ac.jp](mailto:hayashi[at]eng.kagawa-u.ac.jp) (林 敏浩)

[発表申込・原稿締切]

発表者は本学会員のみです。連名の発表の場合には、連名者のうち少なくとも1人が会員である必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記したE-mailを企画編集委員：林 敏浩（香川大学）までお送りください。

発表申込〆切は、2016年4月1日（金）です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方にE-mailにてお知らせいたします。原稿送付〆切は、2016年5月6日（金）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 四国支部長 秋田美代（鳴門教育大学）

(2) 2015年度第8回日本科学教育学会研究会（中国支部開催）

[テーマ] 今求められる科学教育の実践

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日時] 2016年6月4日（土） 10:00~17:30

[会 場] 広島大学大学院教育学研究科 L棟104教室

〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1

[対 象] 会員、教員、学生、社会人

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

[申込先] 2015年度第8回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：木下博義

〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1 広島大学大学院教育学研究科

Tel/Fax : 082-424-6816

E-mail : *hk4183[at mark]hiroshima-u.ac.jp* (木下博義)

[発表申込・原稿締切]

発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。

希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記したE-mailを企画編集委員：木下博義（広島大学）までお送りください。

発表申込〆切は、2016年5月6日（金）です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方にE-mailにてお知らせいたします。原稿送付〆切は、2016年5月13日（金）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 中国支部長 藤井浩樹（岡山大学）

2016 International Conference of East-Asian Association  
for Science Education (EASE 2016 Tokyo 大会)  
国際学会見学ツアーのご案内

2016年8月26日から28日に開催される、East-Asian Association for Science Education (EASE) 2016大会では、国際学会に初めて参加する学生の皆さんに向けて、特別プログラムを準備しています。既にEASEに参加したことのある大学院生たちが学会期間中に一緒に学会に参加し、プログラムの案内、見どころの紹介、発表者との交流、そして大学院生自身の今までの経験を共有することにより、国際学会初参加者の皆さんをサポートします。日本だけでなく、中国、台湾、香港、韓国からも学生、サポートの大学院生が参加するため、東アジア地域のネットワークを広げるまたと無い機会です。

科学教育研究に興味を持っている方々、国際学会参加を迷っている方々、EASEに参加してみませんか？

開催日：2016年8月26日～28日（25日は前日イベントあり）

開催地：東京理科大学 神楽坂キャンパス

締切等：2016年4月15日（アブストラクト提出締切）

2016年6月30日（Early Bird 参加申込期限）

大会ホームページ：<http://ease2016tokyo.jp/index.html>

お問い合わせ：[ease2016tokyo\[at\]mark@gmail.com](mailto:ease2016tokyo[at]mark@gmail.com)（大会本部）

[miku.yoshida\[at\]mark\[ind.ku.dk\]](mailto:miku.yoshida[at]mark.ind.ku.dk)（Alumni 企画連絡担当）

※この企画の申し込み等の詳細は次号に掲載いたします。

（コペンハーゲン大学博士課程・吉田実久）

## 国際学会開催情報

今後、下記の 10 の国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

### 1) ICASE (The International Council of Association for Science Education)

2016 -World Science and Technology Education Conference-

開催地：Antalya, Turkey

期間：2016 年 11 月 1 日～5 日

締切等：2016 年 3 月 1 日（アブストラクト提出締切）《延長されました》

2016 年 7 月 1 日（Early Bird 参加申込期限）

<http://www.icas2016.org/>

※日本科学教育学会は ICASE 加盟団体のため、参加費の割引がある予定です。

(愛媛大学教育学部・隅田 学)

### 2) SITE (Society for Information Technology and Teacher Education) 2016

開催地：Savannah, GA, USA

期間：2016 年 3 月 21 日～25 日

締切等：2016 年 2 月 25 日（Early Bird 参加申込期限）

<http://site.aace.org/conf/>

### 3) AERA (American Educational Research Association) Annual Meeting 2016

開催地：Washington, DC, USA

期間：2016 年 4 月 8 日～12 日

締切等：2016 年 2 月 19 日（Early Bird 参加申し込み期限）

<http://www.aera.net/EventsMeetings/AnnualMeeting/tabid/10208/Default.aspx>

### 4) 2016 NARST (The National Association for Research in Science Teaching) International Conference

開催地：Baltimore, MD, USA

期間：2016 年 4 月 14 日～17 日

締切等：2016 年 2 月 20 日（参加申し込み期限）

<https://www.narst.org/annualconference/2016conference.cfm>

### 5) Global Learn (Global Conference on Learning and Technology)2016

開催地：Limerick, Ireland

期間：2016 年 4 月 28 日～29 日

締切等：2016 年 3 月 28 日（Early Bird 参加申し込み期限）

<https://www.aace.org/conf/glearn/>

6) ICLS2016 (12th International Conference of the Learning Sciences)

テーマ : Transforming Learning, Empowering Learners

開催地 : Singapore

期間 : 2016年6月24日～6月28日

締切等 : 2016年4月15日 (Early Bird 参加申込期限)

<https://www.isls.org/icls/2016/>

7) EdMedia2016 (World Conference on Educational Media and Technology)

開催地 : Vancouver, BC, Canada

期間 : 2016年6月27日～30日

締切等 : 2016年4月22日 (2nd Call プロポーザル投稿締切)

2016年5月25日 (Early Bird 参加申込・カメラレディ期限)

<http://www.aace.org/conf/edmedia/>

8) The IOSTE (International Organization for Science and Technology Education) Symposium 2016

開催地 : Braga, Portugal

期間 : 2016年7月11～16日

締切等 : 2016年5月30日 (Early Bird 参加申込期限)

<http://www.eventos.ciec-uminho.org/ioste2016/>

9) AECT (Association for Educational Communications and Technology) International Convention 2016

開催地 : Las Vegas, NV, USA

期間 : 2016年10月17日～21日

締切等 : 2016年5月18日 (Early Bird 参加申込期限)

<http://www.aect.org/events/call/>

10) E-LEARN 2016 - World Conference on E-Learning

開催地 : Washington, DC, USA

期間 : 2016年11月14日～16日

締切等 : 2016年6月15日 (プロポーザル投稿期限)

2016年10月12日 (Early Bird 参加申込期限)

<http://www.aace.org/conf/elearn/>

(専修大学ネットワーク情報学部・望月俊男)

## 国際学会参加報告 (31)

—2016 The Korean Association for Science Education (KASE)

The 69<sup>th</sup> General Meeting & International Conference 参加報告—

2016年1月28日～30日に、韓国 Daegu の Kyungpook National University で第69回韓国科学教育学会大会が開催されました。本大会のテーマは、「The Future of Science Education: International Perspectives」で、韓国国内学会の全国大会ではありましたが、3名のプレナリー講演と12名のキーノート講演が企画された国際色の豊かな大会でした。残念ながら、その中の一人である Pennsylvania State University の Richard Duschl 先生は、天候不良の影響で参加ができませんでしたが、アメリカ、シンガポール、韓国、中国、英国、香港、台湾、バングラデシュ、日本という多くの国・地域からの講演があり、日本からは、私が「The Japanese View of Nature and Its Implications for the Early Science Education」と題する講演を行いました。

本大会の参加者は約350名と発表されました。参加者のほとんどは韓国の学会員ですが、プレナリー、キーノートは英語で、一般発表でも一部英語発表のセッションが設けられ、活発な議論が行われていました。発表のストランドとしては、Teaching & Learning, Evaluation, Creativity, Gifted Education, Culture, Teacher Education, Integrated Education, Philosophy/Language, Curriculum, Digital Textbook が挙がっていました。ポスター発表については、大会中に審査が行われ、閉講式においてベスト・プレゼンテーションとして2件が表彰されました。

韓国では英文の科学教育研究誌、Asia-Pacific Science Education を発刊しました (<http://www.apse-journal.com/>)。講演者の一人である台湾 National Taiwan Normal University の Mei-Hung Chiu 先生は、米国の National Association for Research in Science Teaching (NARST) の次期会長として選出されています。アジア発の科学教育研究が期待されています。

(愛媛大学教育学部・隅田学)



### 「2015年度日本科学教育学会第3回研究会」報告

2015年12月12日、「次世代の科学教育研究」をテーマに若手活性化委員会主催による第3回研究会が、明治学院大学白金キャンパスにおいて開催されました。今年はポスターマッドネス&セッションに加え、ワークショップを企画し、参加者は総勢60名を超える、熱気に満ちた会となりました。

ワークショップでは、奥本素子先生（京都大学）を講師にお招きして、若手の教員、教職を目指す大学院生、学部生にとって有益になるような「ワークシートデザイン」をテーマに、理論と実践を通して総合的に学ぶことができました。特に実践では、年齢や主とする研究分野など、それぞれ背景の異なる参加者がグループを組んだことから、刺激的な議論が進められたようです。

発表件数29件で行われたポスターマッドネスでは、30秒という短い時間の中込められた発表者の「自分の研究、ぜひ聞いて！」という強い思いが、緊張とともに会場全体に伝わっていました。だからこそ、聞く側も興味津々かつ真剣、その後のセッションの盛り上がりにつながったと思います。また研究内容もさることながら、実演を含むものなど、発表方法も多様で、「科学教育」というくくりの興味深さを実感できる時間となりました。今回のベスト・プレゼンテーション受賞者は以下の4名です。どの発表も甲乙つけがたく、投票に困る…という、なんとも贅沢な悩みを抱えた時間でした。

- ・木村 諒（筑波大学）：学習者同期型アバタを用いた天文学習支援システム
- ・板倉汐里（島根大学）：数学の授業にトラブルシューティング問題を導入する可能性の検討
- ・小野塚葵（明治学院大学）：フィンランドの算数科授業におけるICT利用と教科書
- ・関口有人（宇都宮大学）：「里山Life・アドミンズ」：環境学習を支援するすごろくゲームの開発と実験的評価

また、裏企画として行われた「お土産選手権」も好評で、27件のエントリーがあり、全国のご当地ものを楽しむことができました。第1位の「かいつか焼き芋（つくば）」にほくほくしながらする研究談義も乙なものでした。

若手活性化委員会では、このようなイベント運営に携わっていただく大学院生、学部生のボランティア参加者を毎回募っています。今回の研究会でもボランティアの皆さんが頑張ってくれたことが大きな力になってくださったことは言うまでもありません。このような経験は、どんな職に就くにしろ、これから必要となる力をつけてくれます。これからもぜひ応募していただければと思います。

### 日本科学教育学会第40回年会 若手ワークショップ&懇親会 予告

2016年8月19日（金）～21日（日）に開催されます日本科学教育学会第40回年会において、若手活性化委員会が主催するワークショップ、懇親会を開催予定です。若手研究者による精力的な発表や交流の助けになりますよう、楽しい企画を計画しております。開催予定日は初日になっております。情報は若手活性化委員会 Facebook ページ (<https://www.facebook.com/jssewakate/>) やメーリングリストで続々公開していきます。どうぞご期待ください。

（辻 宏子：明治学院大学）

## 「科学教育研究」編集状況報告

前回（2015年11月21日）以降、この間に編集理事会は開催されていませんので、「科学教育研究」編集状況の報告のみとする。

1. 新規投稿論文（2015.11.1～2016.1.31）：15編（内訳：和文15編、英文0編）
2. 査読中論文（2016.1.31現在）：32編（内訳：担当編集委員選定中：7編、査読員選定中：1編、査読中（1回目）：4編、総合判定中（1回目）：3編、改訂稿待ち：8編、査読中（2回目）：5編、編集委員長最終判定中：4編）
3. 掲載決定論文（2015.11.1～2016.1.31現在）：11編（内訳：研究論文9編、資料2編（通算合計39-1：10編、39-2：1編））

次回、2015年度第2回編集理事会は、2016年3月19日（土）、11:00～14:00、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

### 「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（平成28年1月31日現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2015年 2月	5	0	28	1	2 (39-2) 0 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	2 0		2	0
2015年 3月	7	1	25	2	6 (39-2) 0 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	0 0		4	0
2015年 4月	8	0	27	2	2 (39-2) 1 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	0 0		2	1
2015年 5月	1	0	22	2	1 (39-2) 5 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	0 0		1	0
2015年 6月	6	0	27	1	0 (39-3) 0 (39-4)	0 (39-3) 0 (39-4)	0 0		2	0
2015年 7月	5	0	27	1	2 (39-3) 0 (39-4)	0 (39-3) 0 (39-4)	0 0		2	1
2015年 8月	5	0	28	1	3 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0 0		1	0
2015年 9月	15	1	34	2	3 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0 0		4	2
2015年 10月	6	0	39	2	1 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0 0		0	1
2015年 11月	5	0	36	1	4 (40-1) 0 (40-2)	1 (40-1) 0 (40-2)	0 0		3	1
2015年 12月	4	0	35	1	2 (40-1) 0 (40-2)	0 (40-1) 0 (40-2)	0 0		3	0
2016年 1月	6	0	31	1	3 (40-1) 1 (40-2)	0 (40-1) 0 (40-2)	0 0		5	1



### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 226 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：谷塚光典（信州大）	森田裕介（早稲田大）	
委員：渡邊慶子（滋賀大）	久保田善彦（宇都宮大）	鈴木 誠（北海道大）
荻原 彰（三重大）	清水美憲（筑波大）	望月俊男（専修大）
谷田親彦（広島大）	辻 宏子（明治学院大）	
幹 事：内ノ倉真吾（鹿児島大）	小松孝太郎（信州大）	

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会